

社会福祉法人報恩良友会 ケアハウス「ロータス桑野」発行
岡山市中区桑野 486-12
TEL 086-276-9801

ひるば

vol.194

川柳

「風」

大雪で財布の中に風が吹く
ここだけの話行き交う隙間風
風立ちぬ夢に向かつていざ出発
すきま風犬でも飼ってみようかな
南風いい事なにかありそうな
千の風星輝やきて想う人
硝子越し寒風吹き荒れ春遠し
追い風が吹いても先はあとわずか
春風は胸中吹く風なでおろす
風向きでオリンピックもハプニング
風にのり凧あげする子ゆで蛸に
風に乗りふわふわ浮いて夢の国
春一番風に吹かれて春を呼ぶ

菊江 初枝 八重子 よしか 初音 和夫 金蚤 文康 なか 久子 秀子 緑 聖

春風で壁が崩れて車メゲ

北風にあおられ耐えず心折れ

読者より

受診待つ父子の会話春隣

三月の行事予定

一二日(月)	一四時	押し花
一三日(火)	一四時	エステ
一五日(木)	一四時	川柳「水」
一七日(土)	一五時	親睦会
一八日(日)	午前中	散髪
二〇日(火)	一四時三〇分	お花教室
二四日(土)	一四時	お雛茶会
二七日(火)	一四時	エステ
二八日(水)	一〇時過ぎ	買い物
二九日(木)	一一時	食事会

お詫びと訂正

二月号表紙の年号が平成二九年になっていた
ました。三〇年に訂正させて頂きます。



お久しぶり！



厚彦

佐千子

政子



喫茶開店



三月のお誕生日

おめでとう

ひるば



ひととき

河村隆司先生(その三)

施設長 中島 聖恵

大学生活も終わりに近づいた秋の午後のことでした。卒論に追われて、夏からずっとお能の稽古を休んでいました。大学から帰ると、下宿の尼寺の田中澄俊さんが、「河村先生ご夫妻が陣中見舞いと見えられましたよ。待つておられました、稽古があるからと、たつた今お帰りになりました。途中でお会いしなかつたですか？稽古が終わる頃に能楽堂へ来てくださいと仰つてましたよ」。能楽堂は、大学と下宿の尼寺との中間にあります。私は能楽堂に駆けつけましたが、もう奥様はご自宅へ帰られた後でした。

「ちよつと散歩しましょうか」先生と八坂神社から清水寺まで、道すがら先生の「熊野」の謡いに耳を傾けながら歩きました。清水寺の舞台の階段に腰かけ、先生の和服の懐から出されたクリームパンを食べながら、「熊野」にまつわるお話しに心をうばわれ聞き入っていました。あの当時、観光客は修学旅行生ぐらいで、階段に座つていても周りの邪魔になるわけでもなく、何の不自然さもないほどに長閑でした。そんな時、「能」を舞う時の心の姿勢として、「観の目」の話をして下さったのです。

ものを見るのに「観の目」と「見の目」という二つの見方がある。「見の目」で見ると、例えば、相手を見た時、背が高いとか、若いとか部分的で表面的な見方を指す。それに比べ、「観の目」というのは場全体の立場に立つて相手を見るので、おのずと相手の本質を深く見る事になるというのです。「それでは、いつも人を見ると、観の目で見るといいのですね」と言いはしたものの、ま

さか私が結婚するとき、先生から「ご主人を観の目で見つてもみるように」というのはなむけのお言葉として頂くとは夢にも思いませんでした。

「観の目」とは一体どういう意味なのでしょう。宮本武蔵『兵法三十五箇条』に、真剣勝負に臨むときの心構えが書いてあり、「観の目強く見の目弱し、相手をうらやかに見るべし」と表現されているようですが、武道の世界の事、私には全く分かりません。しかし、河村先生はきつと「観の目」で向きあつておられたのでしょうか。それだからこそ、先生の「能」に向き合われるお姿が、非常に謙虚にして真摯、「能」に出逢えたことに、自分自身の本心といつか全生命そのものを捧げ尽くされているような感じの印象が私を受けていたのかもしれない。ある時、主人と大阪から岡山へ帰りつた時の事です。岡山駅の人込みの中でさえ、一目で見わけがつくほどに先生を取りまく周りには清々しく、爽やかな空気が漂っていました。久々に再会が果たせ、主人を紹介することが出来ました。先生は後に、観世流シテ方で国の重要無形文化財の総合認定保持者となられました。今の私の年齢の頃でさえ、自分自身に向き合われる姿勢は厳しく、「まだまだ」というお言葉が胸に迫つて参ります。

「観の目」でいつも主人をみるように」と非常にむずかしい課題を頂いた私は、今だ先生の足元にも及ばないところであろうろろしています。人生の師と仰ぐ先生は、ご自身弟子に課せられるという事を今改めて痛感しました。河村先生、一生向き合つて参ります。ありがとうございました。

